

(款) 8 . 観光費 (項) 1 . 観光費 (目) 1 . 観光総務費

(単位 千円)

予算現額 161,564 千円
 決算額 155,672 千円

決算額の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
			11,344	144,328

観光企画課

(単位 千円)

事業名	決算額	施策の成果	決算書
1 . 低床バス導入補助金	1,200	伊勢・鳥羽地域の観光施設等を快適に移動できるCANバスに低床バス(ノンステップバス)を昨年に続き導入するため、国と共同で補助を行った。 これにより、高齢者や身体障がい者の移動の利便性及び安全性の向上を図り、地域のイメージアップに繋げた。 事業主体：三重交通 補助金：伊勢市(1,200千円) 鳥羽市(800千円)	頁 229

観光事業課

(単位 千円)

事業名	決算額	施策の成果	決算書
1 . 案内所運営委託事業	6,708	外宮前と近鉄宇治山田駅構内の観光案内所で、観光客の案内を行った。((社)伊勢市観光協会に委託) ・外宮前案内所 37,271件 (うち外国人 1,293件) ・宇治山田駅構内案内所 22,597件 (うち外国人 623件)	頁 229
2 . 観光協会負担金	4,000	(社)伊勢市観光協会の財政基盤の確立と観光協会自体が弾力性をもって観光の推進に努めた。 また、伊勢の伝統芸能である伊勢音頭の文化育成のために、「伊勢音頭地方養成講座」の開催や観光事業者や市民を対象にもてなし心を醸成するために「伊勢もてなし塾」を開催した。	229
3 . 接遇研修事業負担金	200	平成15年度より伊勢市観光協会や各種団体と共催で、「もてなし心の醸成」や伊勢の伝統文化の継承等のために一般市民向けに開催した。3日間で62名が参加した。	229
4 . お伊勢さん観光ガイド育成事業負担金	460	ガイドの育成及び組織強化を図るため講習会・研修会を開催し、ガイドの質の向上を図った。また、外宮前案内所にボランティアガイドを常駐し、案内する体制を整えて、案内所の充実を図った。 ガイド登録数：42名 ガイド件数：1,507件 案内人数：7,585人	229
5 . 初参り旅客接遇事業負担金	600	平成18年度から、地元15団体による伊勢おもてなし会を設立し外宮前、神宮参道、伊勢市駅前広場を中心にかがり火、神宮参道ライトアップ、ふるまい等で初詣客におもてなしをした。 伊勢市観光協会としては、初参りの参拝客の観光案内を含めた接遇及び宇治浦田駐車場の管理を行い、大晦日に内宮、外宮で年越餅6,000個の贈呈を行った。	229

二見総合支所 地域振興課

(単位 千円)

事業名	決算額	施策の成果	決算書 頁
1. 賓日館管理運営事業	11,268	資料館である賓日館の維持管理を、NPO法人二見浦・賓日館の会に委託することにより地域の雇用を創出するとともに、随時イベントを開催し、文化水準及びまちづくり意識の向上を図っている。施設見学はもとより、各種自主催事を実施し、より多くの集客に繋げている。また、平成18年9月1日より指定管理者制度を導入することにより、弾力性や柔軟性のある管理運営を図っている。 委託料 2,500千円(管理業務委託料:H18.4~H18.8) 3,189千円(指定管理料:H18.9~H19.3) 入館者数 H16年度 22,835人 H17年度 30,171人 H18年度 32,235人	229
2. 海水浴場管理運営事業	5,092	平成18年6月15日~8月31日の間、二見浦海水浴場の開設を行った。 委託料 4,325千円(管理運営委託、防護フェンス設置委託) 備品購入費 767千円(防護フェンス購入)	229
3. 観光協会補助金	265	二見浦の観光関係振興事業に対する補助を行った。 補助対象団体 二見浦観光協会 補助金 265千円 (事業費885,132円に対する3/10)	229

(款)8.観光費 (項)1.観光費 (目)2.旅客誘致費

(単位 千円)

予算現額 74,085 千円
決算額 73,190 千円

決算額の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	1,400		700	71,090

観光企画課

(単位 千円)

事業名	決算額	施策の成果	決算書 頁
1. 「はじまりのまち伊勢」誘客戦略推進事業	3,000	三重県と協働して、伊勢の観光資源を十分に活用した観光商品の開発、伊勢への誘客を積極的に図る目的に、エージェントとタイアップして誘客戦略事業に取り組んだ。 主な全国発信パンフレット等(部数・旅行会社) 「お木曳集客パンフレット」 11万部 農協観光 「定期観光バス・タクシーパンフレット」 15万部 JTB、日本旅行、近畿日本ツーリスト、名鉄観光他 「平成のおかげ参り」 共通データ JTB、日本旅行、近畿日本ツーリスト、名鉄観光他	231
2. 平成のおかげ参り事業	2,000	ポスター・チラシの作成・配付、FM三重での事業宣伝、大阪キャラバン、プレス通信の発行等、既存イベントも取り込みながら、一定期間(5月~10月)集中して全国に情報発信を図った。また、ええじゃないか発祥の地、豊橋市との「海の道」を復活すべく、豊橋シンポジウムを開催した。さらにイオン明和店でのPR事業、リレー講座・伊勢まで歩講を催行し、お蔭参りを再現した。	231

事業名	決算額	施策の成果	決算書 頁
3. 伊勢志摩キャンペーン負担金	7,000	10月から半年間、三重県・伊勢志摩地域・近畿日本鉄道(株)と共同で「伊勢志摩キャンペーン」を実施し、伊勢志摩地域の情報発信を行うと共に旅行会社とタイアップした誘客を行った。 ガイドブック：秋号・冬号 各15万部 チラシ：秋号・冬号 各15万部 ポスター：B1 3,000部・B2 3,000部・ B3 56,000部	231

観光事業課

(単位 千円)

事業名	決算額	施策の成果	決算書 頁
1. 明かり行事事業	3,100	8月1日に開催された第9回外宮さんゆかたで千人お参りにおいて、外宮にぎわい会議を中心に神路通りに、竹と和紙で作成した灯籠約800個、外宮参道に約1,000個を並べ、明かりをテーマとした行事を開催した。 また、10月の27日～29日の3日間、おはらい町界限で「伊勢ヨイ夜(ヤ)ナ」を開催した。	231
2. 春の行事負担金	2,400	日本さくらの名所百選の宮川堤において(社)伊勢市観光協会との共催、宮川保勝会の協力により、夜桜のライトアップとぼんぼりで花見客を出迎えた。 (4月1日～10日) 4月12日～13日に日本観光交流・伊勢会議及び観光祈願祭を開催した。	231
3. 楽市行事開催負担金	2,000	伊勢楽市 伊勢志摩地域の地場産品の展示販売を行い、伊勢市駅、外宮周辺の賑わいをつくった。 (4月8日・9日、11月11日・12日) また、楽市の周知のため、大阪府千里中央駅前において「ミニ楽市」を開催し、伊勢楽市を中心とした伊勢の観光PRを行った。(9月26日・27日)	231
4. 花火大会開催負担金	10,000	有料観覧席の販売を一部コンビニエンスストアで委託販売し、宣伝と売上の効果を上げるとともに、旅行エージェント等とタイアップし、新たな手段により観客を集客した。 また、スターマインの部において音楽付き放揚が可能となり、さらに競技花火大会の充実を図った。 観客数20万人	231

二見総合支所 地域振興課

(単位 千円)

事業名	決算額	施策の成果	決算書 頁
1. 全国夫婦岩サミット開催負担金	2,000	各地域の自然や郷土色豊かな夫婦岩等を紹介することにより、郷土資源とのより良い共生の方向を求め、まちおこしを図るため、「全国夫婦岩サミット」を開催した。 開催名 第15回全国夫婦岩サミット 開催日 平成18年9月4日(月)～9月5日(火) 参加 9市町村、団体(49名) 負担金 2,000千円	231

小俣総合支所 地域振興課

(単位 千円)

事業名	決算額	施策の成果	決算書 頁
1. おばたまつり負担金	7,000	地域づくり、協働によるまちづくりを目的として、市民で構成する実行委員会が主催し、「第10回おばたまつり」を開催した。 実施日 : 平成18年8月19日(土) 午後1時から午後9時30分 実施場所 : 宮川親水公園 観客動員数: 約13,000人 参加団体 : 9団体 参加者数 : 481人	231

御園総合支所 地域振興課

(単位 千円)

事業名	決算額	施策の成果	決算書 頁
1. 御園ラブリバーふれあい祭り負担金	6,000	河川愛護の啓発と地域住民のふれあい、協働によるまちづくりを目的として市民で構成する運営委員会が主催し、「御園ラブリバーふれあい祭り」を開催した。 ・実施日 : 平成18年10月27日(土) 午前11時45分～午後7時 ・実施場所 : 宮川ラブリバー公園 ・観客動員数: 約12,000人 ・参加団体 : 20団体 ・参加人数 : 400人	231

(款) 8 . 観光費 (項) 1 . 観光費 (目) 3 . 伝統文化推進費

(単位 千円)

予算現額 77,100 千円
 決算額 77,100 千円

決算額の財源内訳				
国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
				77,100

観光事業課

(単位 千円)

事業名	決算額	施策の成果	決算書
1 . 民俗伝統行事推進 事業負担金	61,500	平成25年の第62回神宮式年遷宮の斎行に向け、20年に一度のお木曳行事(平成18年・第一次)が幕明けとなり、伊勢市の無形民俗文化財「お木曳行事」の関連行事を実施した。 また、民俗文化財としての記録保存の補助金は参加全団に交付した。	頁 231
2 . 伝統芸能継承事業 負担金	1,600	「伊勢音頭地方養成講座」、「里帰り伊勢音頭全国大会」、「初穂曳」への開催負担金。 伊勢市の伝統芸能である伊勢音頭の普及育成とお木曳・お白石持行事の技術と文化を継承するために実施している初穂曳の継承を図れた。	231
3 . お伊勢大祭開催負 担金	9,000	おまつり広場を中心に、伊勢音頭パレードや夜の飾り車などが開催した。 また、神宮神嘗祭に併せ、初穂曳(陸曳・川曳)を実施し、山形県、徳島県、沖縄県などの伝統芸能の来勢を得て盛り上げた。 ・実施日 : 平成18年10月14日(土)~17日(火) ・観客動員数: 約285,000人 ・参加団体 : 194団体 ・参加人数 : 13,581人	231
4 . 伊勢のまつりブラ ンド化推進事業	5,000	10月14日に県営サンアリーナにおいて神嘗晦日祭が行われ、神嘗楽市や阿波踊りや沖縄エイサー、越中おわら風の盆、郡上踊り、花笠踊りなど全国から集まった祭り(踊り)が披露され約10,000人の集客に繋がった。 15日には市駅前から外宮にかけて、初穂曳を中心に全国の踊りなどが披露された。	231